

一般財団法人市川市福祉公社

平成 28 年度第 1 回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成 28 年 6 月 14 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11：00 分
2. 場 所： ザタワーズイースト 3F I-link ルーム 1
3. 出席者 18 名

[委 員]

議長 藤城 誠一
委員 村尾 薫
委員 鈴木 靖成

以上 委員 3 名

[オブザーバー]

市川市福祉部福祉政策課 2 名
高齢者サポートセンター市川第二 1 名
高齢者サポートセンター国分 1 名
高齢者サポートセンター八幡 1 名
大学准教授 1 名
訪問介護事業所 3 名

以上 オブザーバー 9 名

[事務局]

常務理事 下川 幸次
事務局次長 今井 真希
訪問介護課長 長尾 容子
当該事業管理者 市川 奈津子
計画作成責任者 阿部 郁子 菅野 友紀

以上 事務局 6 名

[欠 席]

委員 四ツ屋 真由美

以上 委員 1 名

1.開会

(1) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

開会にあたり定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の現状を説明

(2) 委嘱状交付

常務理事より、新委員になられた鈴木 靖成氏に委嘱状を交付した

(3) 委員等紹介

事務局より、委員等紹介を行う

2.事務局より資料の説明を行う

(1) サービス提供等状況報告

(2) 相談受付状況

(3) 平成 28 年度事業計画

(4) 業務委託について

(5) 事例報告

3.質疑応答

<村尾委員>

Q 事業としてニーズが上がってこないのではないか？ケアマネジャーに対し周知出来ていないのではないか？

南部エリアの訪問介護事業所と公社、それぞれのエリアの比較をしたい。

<訪問介護事業所>

A,毎月の相談は増えてきている。公社エリアの仕事の依頼が来る事がある。その時は公社のエリアである事の説明をしている。毎月の実績としては、29名前後となっている。平均介護度は2.8である。昨年度より介護度は上がって来ている。介護度が上がっても赤字である。

地域の問題なのか、それ以外の問題なのか。ニーズが上がって来ないだけなのか。ケアマネジャーへの周知が必要だと感じている。

<村尾委員>

Q,実績が伸びないのは地域の問題なのか？市の問題なのか？

<鈴木委員>

A,事業として増やして行きたいが、募集をかけても応募がない。周知をするべく周りを巻き込んでいかないといけないのではないかと感じている。

<事務局 長尾>

A, 公社としては、相談イコール定期巡回ではない。公社内での他事業にも移行をしているが、数字アップには中々繋がらない。定期巡回のみだと赤字になってしまう。他の事業も含めて考え採算ベースを保っている。昨年度の利用者数も 10 名程度を推移している。高齢者サポートセンターへの周知方法を考えている。

<事務局 市川>

A, 高齢者サポートセンターからも、このサービスの説明に来て欲しいとの依頼があるので、日程が決定したら説明に伺う予定。

<鈴木委員>

Q, 実績報告で昨年度から横ばい。一事業所の PR は公平性がある為難しい。ニーズが中々掴めないのか、個人情報の事もあるが、イベント等で利用者の声があると見えてくるのではないか。施設では口コミが多くある。利用者からの感想は？

<事務局 長尾>

A, クレームはほぼない。感謝の気持ちが多く聞かれる。

<藤城委員>

・この会議で、本来は利用者と家族の方も参加できる。その時に感謝の言葉があったが、中々話にくい事もあるかと思う。感謝されているというが、本心はどうなのだろう？自分が相手の立場にならないと見えない部分もあると思う。また、情報の共有は難しい。当人が関わっても次の人に伝えるのは難しい。個人情報を盾にしているは伝わらない。普段の様子を伝えて行くのは難しいと思う。

<事務局 阿部>

・ケアマネジャーとの連携はとり易いが、リアルタイムでの報告となると、難しさを感じている。報告が遅くなると、手遅れになる可能性もある。医療連携となると、アセスメントナースのみの訪問の方だけだと往診医等との連携は難しく感じる。今後の課題である。

<藤城委員>

・普段の様子の中で何か気付き、連携が取れていればなお良いと思う。

<村尾委員>

Q, 計画作成責任者はどの位の頻度で利用者宅を訪問しているのか？

<事務局 阿部>

A, 月に 1 回のモニタリングがあるので訪問している。また、一職員としても訪問をしている。

<村尾委員>

Q, その時の訪問でヘルパーへ周知している？

<事務局 阿部>

A,多くのヘルパーが訪問している為、全員への周知は難しい。利用者宅に申し送り事項を記入し周知している。

<村尾委員>

Q,ケアマネジャーとの共有でやりにくい所はあるか？

<事務局 阿部>

A,直接ケアマネジャーと繋がらない時は、FAX を流し情報提供している。

<村尾委員>

Q,連絡ツールを使用する事はあるのか？

<事務局 菅野 阿部>

A,訪問介護事業では、連絡ツールを利用している方はいる。

以前、定期巡回事業でも連絡ツールを利用している方はいた。それは、ケアマネジャーからの情報提供により行っていた。

<村尾委員>

・公社から情報の共有を上手く提示すると良いと思う。

<鈴木委員>

・連絡ツールも確認として良い事だと思うが、言葉・文字でメリットデメリットはあると思う。連絡後は必ず、電話や直接会う等きちんと伝える必要もある。

<藤城委員>

・情報共有は大変な事。連絡ツールでの共有も良い事だが、会話の中から気付く事もある。年に数回、何名でも良いので利用者に対しての情報共有の場が出来れば良いと思う。
以上で本日の議題は全て終了となる。

4.ご意見・ご感想

<市川市福祉政策課>

- ・利用者数が伸びない、採算が合わない等今後、地域包括システム等から発信し、定期巡回が周知されたらいいと思う。
- ・毎月の実績を見ており、5月の実績が下がった理由が解って良かった。周知を進めて行きたい。

<大学准教授>

・良い事業なのに、あまり知られていないのが残念。デイサービスなどロコミなどが多いのでロコミで増えているかわからないが、色々な所で知らせた方がいいと思う。少しの情報が大きく人を吸い寄せてくる事もあり、この事業を知るきっかけになる事もある。
ご家族とのコミュニケーションも、普段の報連相が大事である。地道に行う事でコミュニ

ケーションが取れる様になる。

潜在的にこの事業を求めている人もいると思う。口コミから地道に発掘していけば広がるのではないか。

<高齢者サポートセンター八幡>

- ・高齢者サポートセンターでも周知されていないと感じる。夜間対応型と定期巡回の違いが判っていない人が多い。相談業務を行う中で、定期巡回のメリットがわかれば、ケアマネジャーにも理解頂け、周知して行かれるのではないかと感じた。

<高齢者サポートセンター国分>

- ・情報共有は、施設よりも在宅の方が苦勞すると思う。やはりケアマネジャーが理解を深める事が大事。高齢者サポートセンターでも研修等で広めて行きたい。

<高齢者サポートセンター市川第二>

- ・独居・認知症の方が増えて行く中で、定期的なヘルパーの訪問が必要である。ケアマネジャーとこの事業の理解を深めていきたい。

<訪問介護事業所>

- ・ケアマネジャーへの周知が低いと感じる。共に協力し周知し広めて行きたい。
- ・弊社は利用者数は多いが、採算は取れていない。ほぼ毎回赤字ではあるが、必要な事業であると思う。医療との連携も、体調不良者のバイタルサインをヘルパーが記録している事で在宅医から有益なサービスだと言って頂いた。事業継続の為にも、皆様の協力をお願いしたい。
- ・地域密着サービスとしては、地域の役割を担える有能なサービス。普及率は横ばいなのは、周知不足。利用した人は3割のみ。残りの7割は敷居が高い等の意見があった。周知は事業所のみでは厳しい。地域密着事業として行政との連携が必要である。

5.閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 平成28年9月13日(火)
- ・事業評価について説明

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上
文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回係 阿部